シミュレーション教育の普及と実践という人材育成を通して地域医療の再生に関わります。「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」は、臨床研修医から専門医まで幅広く利用できる施設となれるように多様な教育プログラムを提供していきます。

琉球大学医学部附属病院地域医療教育開発講座 教授
阿部　幸恵　先生

Q1. この度は、琉球大学医学部附属病院地域医療教育開発講座教授ご就任おめでとうございます。今の率直なご感想と今後の抱負をお聞かせください。

3月1日付けで地域医療教育開発講座の教授を拝命しまして、まことに身の引き締まる思いでいっぱいです。琉球大学医学部附属病院の地域医療教育開発講座は沖縄県の寄附講座として平成22年12月に新設されました。国の地域医療再生事業の一環であり都道府県が開設する形です。

本講座の役割は、シミュレーション教育という新しい教育法の普及とシミュレーション教育の指導者の養成、臨床研修医から専門医まで幅広く利用できるシミュレーション教育プロラムの開発にあります。そして、それらを通して、去る3月25日に開設となった「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」の充実した展開を目指すことです。

私は、これまで、医学教育を中心に、看護学、薬学など医療者教育におけるシミュレーション教育のプログラムの開発・実施を行ってきました。それらの経験とそこで得た知見を活かして、沖縄県での「シミュレーション教育」の充実のために、力を尽くしていきたいと思っています。そして、シミュレーション教育を中心とした活動を通して、沖縄県での地域医療の再生や再構築に少しでもお役に立てるように、がんばりたいと思っています。

Q2. おきなわクリニカルシミュレーションセンターの設置により、質の高い医師や医療従事者の養成のみならず復職支援においても非常に期待されるところですが、当講座は同センターにおいて、具体的にどのような役割を担われるのでしょうか。

「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」は沖縄県のすべての医療系学生および医療職を対象としてシミュレーション教育を展開していく場です。

シミュレーション教育は、医療の様々な現場を模擬的に再現した環境と人体の一部をリアルに再現したシミュレータやコンピュータで制御して生体反応を忠実に表現できるマネキンタイプのシミュレータ、模擬患者などを利用します。そしてその中での学習者の体験や学習者と指導者の体験後の振り返りのディスカッションを繰り返し行うことで医療者個人のスキルの向上やチーム連携強化を図るという教育です。

指導者が一方的に知識を教えたり、技術の一連の流れのみを学習者が体得する学習とは異なり、臨床で遭遇する患者の状態や状況に対して

個人や医療チームがどのように対応していくのかを主体的に学習者が考えながら問題解決能力やコミュニケーションスキルを向上していくことがこの教育の特徴です。つまり、この教育の充実した展開には、建物や機材などのハードな部分だけでなく、学習者が主体的に学ぶことを支援できる指導者の養成や教育プログラムの開発といったソフトの部分が非常に重要な鍵となります。当講座は、このソフトの部分での役割を担っています。センター開設前からシミュレーション教育を指導できる指導者養成のプログラムをピッツバーグ大学、ハワイ大学の支援をうけながら展開してきました。指導者養成の研修会に参加して下さった医療者の方々は、のべ1,000人を超えています。これからも学習者の主体性を引き出すことのできる指導者を養成するプログラムを展開していきます。また、臨床研修医から専門医までが学ぶことのできる多様な教育プログラムを各科の指導医のご意見やアドバイスを受けながら、開発していきたいと思っています。さらに、医療以外の分野とも連携をとり、シミュレータの開発や、遠隔でのシミュレーション教育などのシステム作りにも力を入れていきたいです。

Q3. 去る3月25日（日）に同センターのオープニングセレモニーが盛会に行われたところです。阿部先生は、当センターの設立に大きく関わっておりますが、設立に至るまでのご苦労話等がありましたらお聞かせください。

特に苦労と感じたことはありません。昨年こちらに赴任してから多くの方々と関わる中で、感じていることは、堅実で、実直な県民性が大きな力となるということです。設立に向けては、皆さまと様々なことを話し合い、決めて、具体的に実行していかなければなりません。シミュレーション教育の普及という大事業です。とても一施設や個人レベルでできることではありません。「ALL沖縄で取り組みたい」という私の願いを県内の指導医の方々が受け止めてくださり、施設を超えて支援して下さったことに本当に感謝しています。センターの開設準備を通して、県立群、群星群、琉球大学群の指導医らが「シミュレーション教育」の充実のために、話し合いの場を共有し活動していくことで心を一つにしていく様子はすばらしく、本当に頭が下がります。小さなことも確実に、個人や組織が与えられた役割をきっちりと果たしていく姿から沖縄県の医療の発展への思いの強さ、そして、沖縄県を愛する心、「絆」の強さを感じています。その感動の大きさに比べれば、苦労など一つもないと思っています。

Q4. 県医師会に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

当講座は県内の多くの施設や組織との関わり合いの中で、「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を中心としたシミュレーション教育の普及とセンターでのトレーニングの充実を目指していきたいと考えています。センターに県内の多くの医師たちが集い、研修医の指導や、専門医の育成を考えていくことで沖縄県から多様で斬新な医師養成のシミュレーション教育プログラムを国内外に発信していくことができたらよいと考えています。そして、施設や組織を超えたALL沖縄の医師養成の取り組みが、沖縄県の魅力となって地域医療の再生や充実に貢献していくことを願っています。県医師会には、センターの開設準備から現在にいたるまで、多くの支援を受けて参りました。広報から具体的なトレーニングの場の提供まで、多岐に渡ります。とくに、本年度（平成24年度）に県内の施設に採用された研修医全員を対象としたシミュレーショントレーニングにおいては、毎月、指導医らの話し合いの場を提供して下さり、具体的なご指導をしていただきました。このような県医師会のご理解とサポートがあって、我々は歩みを進めていくことができると感謝しています。今後とも、県医師会のご指導、ご鞭撻を賜るとともに、全面的なバックアップをお願いしたいと思っております。

Q5. 先生の座右の銘、日頃の健康法やご趣味などをお聞かせ下さい。

座右の銘は、「継続は力なり」です。与えられた場所で、与えられた役目を誠実に、コツコツと行い続けることが、力になっていくと思っています。日頃の健康法は、特別なことはしていません。強いて言えば、逆境はチャンスだと思うように、すべて、その日にあったつらい事や残念なことも、ポジティブに受け止めることのできる「心」、そして「心八分目」のゆとりを持つようにしています。そして食事です。できるだけ、県の食材を使ったヘルシーな料理を心がけています。島どうふ、ニガナ、ハンダマ、田芋、ナーベラーなどをよく使います。また、おやつには、黒糖とタンナファークルーがマイブームです。沖縄の食材は、豊かな太陽と土の恵みから、いのちを頂き育ってきたのだと感じます。きっと栄養だけでなく、このいのちの力強さが元気を与えてくれるのだと思います。趣味は、いろいろありますが、今は琉球料理を学ぶこと、沖縄県の歴史を紐解く読書が余暇の大半となっています。

この度は、インタビューへご回答頂き、誠に有難うございました。

インタービューアー：広報委員　金谷 文則